

古文書整理：地域資源としての古文書を考える

静岡文化芸術大学 文化政策学部 水谷悟ゼミ・西田かほるゼミ

指導教員：水谷悟 西田かほる

参加学生：榎田萌華 小川果南 鈴木稜歌 数原愛理 近保音羽 寺沢朋恵 林奈穂

毛受海斗 山下遼太郎 山村優菜 和田 葵 太田美樹 折井楓華 芦崎美友
熊切滯太 釵持夏海 小杉勇人 佐藤智也 清水風帆 鈴木晴日 長野実紅
西野晴香 松井風歌 葭田奈美

1. 要約

本研究は静岡県榛原郡川根本町千頭の殿岡家が所蔵する8,000点余にのぼる文書の整理・調査を行うものである。殿岡家文書は、殿岡嗽石（1851—1933）によって蓄積された文書群を主とする。嗽石は千頭村戸長・榛原郡会議員・静岡県会議員を歴任し、金原明善とともに植林事業を行ったほか、山林経営、茶業組合、大井川鐵道の敷設、地域郵便局の開設・運営に関わりながら地域青年の指導に努めた名望家であった。つまり本文書群は家史料としての価値を超え、当該地域の歴史・産業・生活を考える上で重要な「公文書」的性格を有している。本文書群を調査整理し広く利用できる状態にすることで、古文書を文化遺産として後代に伝えるとともに、地域の方々と連携し古文書に記された情報や知見を地域資源として活用してもらうための基礎をつくる。

2. 研究の目的

川根本町千頭の殿岡家が所蔵する古文書の調査を行い、概要目録を作成することで文書の散逸を防ぎ、地域資源としての古文書の活用方法を探ることを目的とする。

3. 研究の内容

現在殿岡家には、茶箱類41箱とタンスなどに収納された未整理文書が約4,000点余ある。それらの現状記録を行った上で、文書を1点ごとに中性紙封筒へ収納し、内容や年月日・作成者などの情報を読み取って目録を作成する。その後、目録の情報をデータ入力し、検索が可能な形にする。また、殿岡家には『本川根町史』の編纂時に調査された文書(3,000点余)も保管されているが、現物と目録を対照することができないなど、現状では利用が困難である。そのため既整理分の文書についても整理を行うとともに、目録のデータベース化をすすめる。

文書調査自体が研究活動であるが、文書整理をすすめる中で、殿岡嗽石をはじめとする研究をおこなう。これらの研究は調査中のミーティングを基本としつつ、学生とともに各ゼミにおいて興味を持った史料の翻刻や報告を行う機会を設ける。その際、特に殿岡家史料に見られる地方名望家の「公」的な役割に着目し、当該地域の歴史・産業・生活を復元し、その価値を改めて見直す契機としたい。

4. 研究の成果

(1) 当初の計画

文書群の規模が大きいため、長期間にわたる調査が予測される。2年目にあたる今回は、未整理分の史料の目録を順次作成するとともに、各々が興味を持った史料の読解をすすめることにより調査の充実をはかる計画であった。また、調査の際には時間を設け、地域の方々と古文書の活用方法について検討する時間を設けることとした。

(2) 実際の内容

B：一部修正

今年度は新型コロナウイルス防止の観点から、当初予定していた現地での合宿調査を断念した。現地調査ができなかったため、地域の方々と古文書の活用方法について検討することは、次年度におこなうことにした。調査については、10月に殿岡家から史料の一部を借り出し調査を行った。借用した史料は事前調査で付した単位A-1～4である。

調査においては密を避けるためゼミ単位の作業とし、ゼミ終了後に調査を実施した。学生は複数のグループに別れ、それぞれA-1～4までの文書単位の現状記録（保存状況を写真・スケッチで記録する）を行った。さらに箱などの単位から史料1点ずつを取り上げて中性紙の封筒へ収納し、番号を付与した。封筒に収納した文書は、目録用紙に表題・年代・作成・差出・その他の情報を記入し、内容を記録した。調査後にはミーティングを行い、当日の作業内容の確認と、文書群の情報共有をはかった。目録の記載事項については、後日エクセルに入力し、データベース化している。



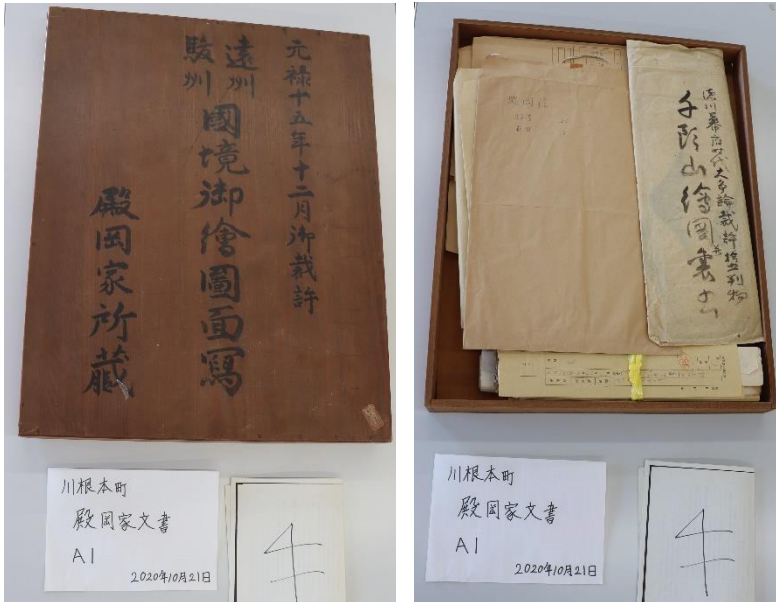
作業風景（目録作成の様子）



(3)実績・成果と課題

今回の調査で作成した目録は、約 620 点余であった。これにより単位 A を終了した。各単位の詳細は下記の通りである。なお、文書は袋に入っていたり束ねられたりしているため、枝番号まで含めると () 内の点数となる。

- A-1-1~18 (66 点) 元禄期の山論、昭和初期の御料地境争論関係など
一部、既整理の史料を含む(本川根町史、静岡県史の調査封筒に入った文書あり)
- A-2~1~25 (25 点) 明治・大正期の土地、学校、鉄道関係など簿冊類
- A-3-1~17 (330 点余) 明治 20~30 年代の土地、山林組合、川根軌道線路平面図、東郷平八郎著忠魂碑関係など
- A-4-1~18 (200 点余) 明治~昭和期の絵図、地図類など



A-1 現状写真
(左：蓋、右箱内部)



A-3 事前調査時の現状

(4) 今後の改善点や対策

新型コロナウイルス感染症への対策として、当初予定していた合宿調査から、史料を大学へ借り出して調査をする方法へ変更した。そのため、昨年度よりも調査時間が減少することになった。新型コロナウイルスの状況次第であるものの、次年度は、合宿調査を準備しつつ、前期の段階から史料を借り出して調査をすすめることにより、より円滑な調査をおこないたい。また、所蔵者や地域の方々との交流を深め、成果の還元をはかる方法を考えることとする。

5. 地域への提言

地域社会のあり方が急激に変化していく中で、現在、古文書は滅失の危機にある。市町村史編さんに際して一度整理された古文書であっても、しばしば廃棄の対象となっている。古文書が地域の歴史を知るための重要な文化遺産であることを踏まえ、殿岡家文書のみならず、地域の古文書あるいは史跡・石造物を含めた歴史遺産の現状を把握し、保存計画を策定する必要がある。今回調査した絵図類などは、地域の方々にとって身近に感じやすいものであろう。このような古文書を文化資源として積極的に活用できるよう、一緒に考えさせていただきたい。

6. 地域からの評価

本年度当初は昨年度同様、現地（川根本町千頭の殿岡家）にて調査を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来町いただいで調査をご遠慮いただく形となりました。

そのような中でも史料を大 학교内にて調査していただき、約 7000 点の古文書のうち、今年度は令和 3 年 1 月時点で 620 点余りの整理を終えることができたということで、ありがとうございます。

史料についても、当町の近代的発展に寄与したであろう鉄道、川根軌道線路の平面図などが整理され、発展の流れを明らかにするうえで大事な史料を発見いただけたと思います。また、絵図、地図類が新たに調査され、古文書とは違う視点で地域の歴史を読み解くアプローチをしていけるのではないかと期待ができました。

調査することで活用されていなかった古文書に価値をつけることができ、「文書の散逸を防ぐこと」ができたと考えます。また、様々な種類の古文書があることがわかり、色々な活用方法を考えることができるのではないかと期待しています。

未整理資料はまだありますが、地域資源として活用できるよう、次年度以降も調査検討を続けていただきたいと思います。